

20 山原 裕美 さん

Yumi Yamahara

起

北勢

Sakura Berry's Garden さくらベリーズ
ガーデン（四日市市）園長

事業所

住所：三重県四日市市桜町 7818

URL：https://www.sakura-berrys.com

社員数：2名、ボランティアスタッフ5名

業種
観光農園



Profile

- ・ホテル勤務を経て、2児の母に
- ・育児中は事務職に転身、新人指導を担当
- ・2013年、農園立ち上げから携わり、園長へ
- ・2018年、リピーター約7割の人気農園に

講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立 育ボス
- 人材育成 障がい者雇用 起業
- NPO設立 多文化共生
- 地域資源活用 防災
- その他（キャリアアップ・キャリアデザイン
マナー講師）

講演実績

- ・2005年「女性社員を対象にした『電話対応（基本編・応用編）』」（三重県内企業）
- ・2017年「Myスタイル起業 伝わる発表会」（東海3県女性起業家等支援ネットワーク）

「私の使命」

女性の靴&ベビーカーでも快適な農園に

毎年6～8月まで営業する観光ブルーベリー農園。ベビーカーも車椅子も通れる広い通路が整備され、防草シートが敷かれた平坦な地面は、女性のおしゃれ靴を汚すことはありません。

「『観光農園を始めたいから力を貸して欲しい』と生産農家だった現夫に声を掛けてもらった時は、嬉しくて。それまでは会社員として事務職に従事。「サービス業への思いは、いつもありました。けれどシングルマザーだったので、土日に働くのが難しくて」。

子育てがひと段落した頃に巡ってきたチャンス。農業も観光農園も初めてでしたが「生産以外の運営管理を一任してほしい」と申し入れました。園内には山原さんのアイデアと心遣いがちりばめられています。

ホテル時代の接客術で、リピーターが7割！

開園当初から力を入れたのが、SNSの情報発信。「とにかく出来る事を精一杯に。結果が見えてきたのは3年目ごろ」と振り返ります。多くの来場者は40代～60代のオトナ女性。一度訪れた際に「美味しかった」「色んなブルーベリー品種（96品種1,000本）を食べ比べできた」などと喜び帰り、翌年には家族や友人などを誘って再び訪れるとか。

「美味しさは一番の自信です。加えてホテル時代に培ったサービス業の経験も活かしているかも」。一人ひとり顔を合わせての声かけを忘れず、予約者台帳にはその会話内容を毎日記す。「この農園が“心安い居場所”になって欲しいから」。その結果、2018年夏の営業では前年来園者の約7割が再訪したそうです。

私流リーダーシップ

農園に頼れる助っ人！『ベリーズおじさん隊』

観光農園の営業期間中は、夫の友人4名がボランティアスタッフとして参加。「『ベリーズおじさん隊』とみんなで名付けました」。職業は営業、設計、製造、会社経営とさまざま。それぞれに本業があるので、農園の手伝いは好意の参加です。従業員として雇用する時とは違う、人と人の向き合い方があると山原さんは言います。「やはり楽しく参加していただく。ここでも“心安さ”を大切にしています」。

特に大切なのがボランティアそれぞれの「個性を見極め、個々に合う作業に関わっていただくこと」。仕事内容は接客から園の整備までさまざま。開園から5年経っても変わらない仲で「先日はお揃いのTシャツを作りました！体育祭のような楽しい雰囲気です」。

職場改善は“世話好きおばさん”流

来園客とも、ボランティア参加者とも、一人一人の顔を見て関わるという山原さん。その心がけの基になっているのが、事務員時代の経験です。「毎年入社してくる新人の精神的フォロー役と、電話対応・接客の教育係を担っていました」。

電気工事業の会社で、数少ない女性社員の一人として、潤滑油としての役割を期待されていたそう。「例えば5人が入社すると、5人とも違う思いや悩みを抱えています。表に出るのは不機嫌や無気力な態度。“世話好きおばさん”として（笑）、心の声を聞き出し、配置転換など可能な範囲で改善をしていました」。

今も変わらぬ目配り気配り、そしてスピーディーな改善対応で、楽しい農園を開拓し続けています。

（取材時：2018年8月）

こんな講演・相談に対応できます

- 「観光業+農業」異業種の共有
- 女性視点を取り入れた農園整備
- 農業・観光農園のSNS活用術
- 新人・女性のためのビジネスマナー

お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBは
こちら

